

学校の在り方地区検討委員会（東青地区） 【第2回】



令和8年1月
青森県教育委員会

本日の流れ

| 事務局説明

- (1) 第1回の主な意見
- (2) 第1回の意見に基づく資料
- (3) 高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン（仮称））骨子

2 意見交換

- (1) 全日制課程の学校規模・配置について
 - ①学校規模・配置
 - ②学校規模・配置の効果・課題
- (2) 定時制課程・通信制課程の学校配置について

I 事務局説明

(1) 第1回の主な意見

参考資料1を参照

(2) 第1回の意見に基づく資料

参考資料2を参照

(3) 高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン（仮称））骨子 ～2040年に向けたN-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想～【R7.11.28公表】

1 グランドデザインの背景

- 2040年には、少子高齢化や生産年齢人口減少、地方の過疎化が一層深刻化。産業構造や社会システムの変化を踏まえた労働力需給ギャップや理系人材不足の可能性
- 高校生が「自ら問いを立てる力」「他者と共に価値を作り出す力」等を身に付け、希望する大学等への進学や就職等をし、生涯を通じて幸福に暮らしていくことができるよう、次の3つの視点で高校改革

2 高校改革の方向性

＜視点1＞AIに代替されない能力や個性の伸長

- 探究的、実践的学習への学習観の転換
- 「生徒を主語にした」教育の推進
- 「好き」を育み「得意」を伸ばす多様な経験を通じた、生徒一人一人の能力の伸長、主体性の涵養

＜視点2＞我が国の社会・経済の発展を支える人材育成

- 産業イノベーション人材、世界で活躍する人材の育成
- 新時代を担う人材を育成するための高校の特色化・魅力化

＜視点3＞一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

- 地域における高校教育の維持や学びのアクセスの確保
- 高校のいづれの課程でも柔軟で質の高い学びの選択肢を保障

2 意見交換

(Ⅰ) 全日制課程の学校規模・配置について

①学校規模・配置

〈論点〉

- 学級減や統合等を含めた学校規模・配置

〈意見交換に当たっての留意点〉

- 「高等学校教育を受ける機会の確保」と「充実した教育環境の整備」の2つの観点のバランス
- 中学生や保護者のニーズ
- 地域の産業構造などの地域の実情

第1回の意見に基づく学校規模・配置

① 学級減（大規模校から）で対応

第2期実施計画	前期実施計画	後期実施計画	△6学級	△7学級	△6学級	△7学級	△6学級	△7学級
R 9	R 14	R 19						
青森 6学級	青森 5学級	青森 4学級						
統合校 6学級	統合校 5学級	統合校 4学級						
青森西・浪岡 0学級								
青森東 6学級	青森東 5学級	青森東 4学級						
青森北 普通科4学級 スポ科1学級 5学級	青森北 普通科3学級 スポ科1学級 4学級	青森北 普通科2学級 スポ科1学級 3学級						
青森南 普通科3学級 グロ探1学級 4学級	青森南 普通科3学級 グロ探1学級 4学級	青森南 普通科3学級 グロ探0学級 3学級						
青森中央 4学級	青森中央 4学級	青森中央 3学級						
青森工業 6学級	青森工業 5学級	青森工業 4学級						
青森商業 5学級	青森商業 4学級	青森商業 4学級						
42学級	36学級	29学級	→	→	→	→	→	→

〈意見〉

- 各校満遍なく減らした方が良い。
- 高校としては3～4学級はあってほしいので、前期は青森高校、東青地区統合校、青森東高校、青森北高校の普通科、青森工業高校、青森商業高校から、後期は青森高校、東青地区統合校、青森東高校、青森北高校の普通科、青森南高校のグローバル探究科、青森中央高校、青森工業高校から、それぞれ1学級減らしていくのが順当。

〈効果〉

〈課題〉

第1回の意見に基づく学校規模・配置

② 学級減（志望倍率の高い学校・学科は除く）で対応

第2期実施計画 R 9	前期実施計画 R 14
青森 6学級	青森 6学級
統合校 6学級	統合校 5学級
青森西・浪岡 0学級	
青森東 6学級	青森東 6学級
青森北 普通科4学級 スポーツ科1学級 5学級	青森北 普通科3学級 スポーツ科1学級 4学級
青森南 普通科3学級 グロ探1学級 4学級	青森南 普通科3学級 グロ探0学級 3学級
青森中央 4学級	青森中央 3学級
青森工業 6学級	青森工業 5学級
青森商業 5学級	青森商業 4学級
42学級	△6学級 → 36学級

〈意見〉

- 志望倍率が高い高校は学級減を考えなくても良い。

〈効果〉

〈課題〉

第1回の意見に基づく学校規模・配置

③ 学級減（専門学科は除く）で対応

第2期実施計画 R 9	前期実施計画 R 14
青森 6学級	青森 5学級
統合校 6学級	統合校 5学級
青森西・浪岡 0学級	
青森東 6学級	青森東 5学級
青森北 普通科 4学級 スポーツ科 1学級 5学級	青森北 普通科 3学級 スポーツ科 1学級 4学級
青森南 普通科 3学級 グロ探 1学級 4学級	青森南 普通科 2学級 グロ探 1学級 3学級
青森中央 4学級	青森中央 3学級
青森工業 6学級	青森工業 6学級
青森商業 5学級	青森商業 5学級
42学級	△6学級 → 36学級

〈意見〉

- 多様なこどもたちのニーズに対応するためにも、現状の学科は維持してもらいたい。
- 専門性のある学科は必要。学科の維持は最低限必要。
- 工業高校や商業高校は専門的な学びができる高校なので残した方が良い。
- 持続可能な社会のために、専門高校は統廃合すべきではない。
- 産業教育を行う学科は、これからの中を見据えたキャリア教育を考える上でとても重要であり、統廃合の対象にすべきでない。

〈効果〉

〈課題〉

学校の在り方地区検討委員会（西北地区） 【第2回】



令和8年1月
青森県教育委員会

本日の流れ

| 事務局説明

- (1) 第1回の主な意見
- (2) 第1回の意見に基づく資料
- (3) 高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン（仮称））骨子

2 意見交換

- (1) 全日制課程の学校規模・配置について
 - ①学校規模・配置
 - ②学校規模・配置の効果・課題
- (2) 定時制課程・通信制課程の学校配置について

I 事務局説明

(1) 第1回の主な意見

参考資料1を参照

(2) 第1回の意見に基づく資料

参考資料2を参照

(3) 高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン（仮称））骨子 ～2040年に向けたN-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想～【R7.11.28公表】

1 グランドデザインの背景

- 2040年には、少子高齢化や生産年齢人口減少、地方の過疎化が一層深刻化。産業構造や社会システムの変化を踏まえた労働力需給ギャップや理系人材不足の可能性
- 高校生が「自ら問いを立てる力」「他者と共に価値を作り出す力」等を身に付け、希望する大学等への進学や就職等をし、生涯を通じて幸福に暮らしていくことができるよう、次の3つの視点で高校改革

2 高校改革の方向性

＜視点1＞AIに代替されない能力や個性の伸長

- 探究的、実践的学習への学習観の転換
- 「生徒を主語にした」教育の推進
- 「好き」を育み「得意」を伸ばす多様な経験を通じた、生徒一人一人の能力の伸長、主体性の涵養

＜視点2＞我が国の社会・経済の発展を支える人材育成

- 産業イノベーション人材、世界で活躍する人材の育成
- 新時代を担う人材を育成するための高校の特色化・魅力化

＜視点3＞一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

- 地域における高校教育の維持や学びのアクセスの確保
- 高校のいづれの課程でも柔軟で質の高い学びの選択肢を保障

2 意見交換

(Ⅰ) 全日制課程の学校規模・配置について

①学校規模・配置

〈論点〉

- 学級減や統合等を含めた学校規模・配置

〈意見交換に当たっての留意点〉

- 「高等学校教育を受ける機会の確保」と「充実した教育環境の整備」の2つの観点のバランス
- 中学生や保護者のニーズ
- 地域の産業構造などの地域の実情

第1回の意見に基づく学校規模・配置

① 学級減（五所川原工科高校の普通科を2学級減）で対応

第2期実施計画 R 9	前期実施計画 R 14
五所川原 普通科 4 学級 理数科 1 学級 5 学級	五所川原 普通科 4 学級 理数科 1 学級 5 学級
五所川原農林 3 学級	五所川原農林 3 学級
木造 3 学級	木造 3 学級
五所川原工科 普通科 2 学級 工業科 3 学級 5 学級	五所川原工科 普通科 0 学級 工業科 3 学級 3 学級
16 学級	△2学級 → 14 学級
【地域校】 鰺ヶ沢 1 学級	【地域共有校】 鰺ヶ沢 1 学級
17 学級	△2学級 → 15 学級

〈意見（第1回会議）〉

- 今の学校配置を維持すべき。前期実施計画期間は統廃合しないでほしい。
- 五所川原工科高校の普通科を他の普通科に集約すれば良い。同校が工業科だけとなることで学校の特徴が際立つ。
- 五所川原工科高校の普通科を減らして公立高校普通科の受検倍率を上げることで、地域全体の競争心・学力の底上げが期待できる。また、それが大学等への進学を目指さない生徒の工業科入学の動機付けになる。
- 2学級減であれば、職業教育を主とする専門学科及び総合学科の学級減は控えてほしい。
- 基幹産業の担い手を育成する学科を減らすることは想像できない。2学級を減ずるのであれば、職業教育を主とする専門学科を対象とするのは反対である。

〈効果〉

- 高校を残すことができる。

〈課題〉

- 対象校がいずれ募集停止となるといったネガティブなイメージを持たれ、進学先として選択されにくくなることが予想される。

第1回の意見に基づく学校規模・配置

② 学級減（五所川原高校と五所川原工科高校の普通科を1学級ずつ減）で対応

第2期実施計画 R 9	前期実施計画 R 14
五所川原 普通科 4学級 理数科 1学級 5学級	五所川原 普通科 3学級 理数科 1学級 4学級
五所川原農林 3学級	五所川原農林 3学級
木造 3学級	木造 3学級
五所川原工科 普通科 2学級 工業科 3学級 5学級	五所川原工科 普通科 1学級 工業科 3学級 4学級
16学級	△2学級 → 14学級
【地域校】 鰺ヶ沢 1学級	【地域共有校】 鰺ヶ沢 1学級
17学級	△2学級 → 15学級

〈意見（第1回会議）〉

- 今の学校配置を維持すべき。前期実施計画期間は統廃合しないでほしい。
- 当地区は普通科が多いため、五所川原工科高校の普通科を1～2学級減することが望ましい。それにより、五所川原高校がかつてのような切磋琢磨できる環境となる。2学級減であれば、職業教育を主とする専門学科及び総合学科の学級減は控えてほしい。
- 五所川原工科高校の普通科を減らして公立高校普通科の受検倍率を上げることで、地域全体の競争心・学力の底上げが期待できる。また、それが大学等への進学を目指さない生徒の工業科入学の動機付けになる。
- 基幹産業の担い手を育成する職業教育を主とする専門学科や総合学科を学級減の対象とするのは反対である。

〈効果〉

- 高校を残すことができる。

〈課題〉

- 対象校がいずれ募集停止となるといったネガティブなイメージを持たれ、進学先として選択されにくくなることが予想される。

第1回の意見に基づく学校規模・配置

③ 統合（五所川原農林高校と五所川原工科高校）で対応

第2期実施計画 R 9	前期実施計画 R 14
五所川原普通科4学級 理数科1学級 5学級	五所川原普通科4学級 理数科1学級 5学級
五所川原農林 3学級	△2学級 →
五所川原工科普通科2学級 工業科3学級 5学級	新設校 農業科○学級 工業科○学級 6学級
木造 3学級	木造 3学級
16学級	△2学級 → 14学級
【地域校】 鰺ヶ沢 1学級	【地域共有校】 鰺ヶ沢 1学級
17学級	△2学級 → 15学級

〈意見（第1回会議）〉

- 農業科と工業科の連携により、農業で使う機械の整備するなど、自動車・農業機械・ドローン等のこれからの中の本県や当地区の産業の維持・発展の観点から改めて考えると、五所川原農林高校と五所川原工科高校を実業高校として統合する案は良いものであるとも感じる。

〈効果〉

- 部活動の活力が保たれることが挙げられるが、活力維持の方法は様々ある。

〈課題〉

- 学校の目指すものがはっきりしないことや学校数が減ること。

※学級減の対象となりうる学校については、学級数を「○学級」と示している。

学校の在り方地区検討委員会（中南地区） 【第2回】



令和8年2月
青森県教育委員会

本日の流れ

| 事務局説明

- (1) 第1回の主な意見
- (2) 第1回の意見に基づく資料
- (3) 高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン（仮称））骨子

2 意見交換

- (1) 全日制課程の学校規模・配置について
 - ①学校規模・配置
 - ②学校規模・配置の効果・課題
- (2) 定時制課程・通信制課程の学校配置について

I 事務局説明

(1) 第1回の主な意見

参考資料1を参照

(2) 第1回の意見に基づく資料

参考資料2を参照

(3) 高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン（仮称））骨子 ～2040年に向けたN-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想～【R7.11.28公表】

1 グランドデザインの背景

- 2040年には、少子高齢化や生産年齢人口減少、地方の過疎化が一層深刻化。産業構造や社会システムの変化を踏まえた労働力需給ギャップや理系人材不足の可能性
- 高校生が「自ら問いを立てる力」「他者と共に価値を作り出す力」等を身に付け、希望する大学等への進学や就職等をし、生涯を通じて幸福に暮らしていくことができるよう、次の3つの視点で高校改革

2 高校改革の方向性

＜視点1＞AIに代替されない能力や個性の伸長

- 探究的、実践的学習への学習観の転換
- 「生徒を主語にした」教育の推進
- 「好き」を育み「得意」を伸ばす多様な経験を通じた、生徒一人一人の能力の伸長、主体性の涵養

＜視点2＞我が国の社会・経済の発展を支える人材育成

- 産業イノベーション人材、世界で活躍する人材の育成
- 新時代を担う人材を育成するための高校の特色化・魅力化

＜視点3＞一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

- 地域における高校教育の維持や学びのアクセスの確保
- 高校のいづれの課程でも柔軟で質の高い学びの選択肢を保障

2 意見交換

(Ⅰ) 全日制課程の学校規模・配置について

①学校規模・配置

〈論点〉

- 学級減や統合等を含めた学校規模・配置

〈意見交換に当たっての留意点〉

- 「高等学校教育を受ける機会の確保」と「充実した教育環境の整備」の2つの観点のバランス
- 中学生や保護者のニーズ
- 地域の産業構造などの地域の実情

第1回の意見に基づく学校規模・配置

① 学級減（定員割れとなっている高校）で対応

第2期実施計画	前期実施計画
R 9	R 14
弘前 6学級	弘前 6学級
弘前工業 6学級	弘前工業 6学級
柏木農業 3学級	柏木農業 2学級
弘前中央 5学級	弘前中央 5学級
弘前南 5学級	弘前南 5学級
黒石 普通科3学級 商業科1学級 看護科1学級 5学級	黒石 普通科2学級 商業科1学級 看護科1学級 4学級
弘前実業 商業科3学級 家庭科2学級 スポーツ科1学級 6学級	弘前実業 商業科3学級 家庭科2学級 スポーツ科1学級 6学級
36学級	34学級

〈意見〉

- 学級減は、立地条件ではなく、定員割れとなっている高校から減ずることが考えられる。

〈効果〉

〈課題〉

第1回の意見に基づく学校規模・配置

② 学級減（1学級の職業教育を主とする専門学科は除く）で対応

第2期実施計画	前期実施計画
R 9	R 14
弘前 6学級	弘前 ○学級
弘前工業 6学級	弘前工業 6学級
柏木農業 3学級	柏木農業 3学級
弘前中央 5学級	弘前中央 ○学級
弘前南 5学級	弘前南 ○学級
黒石 普通科3学級 商業科1学級 看護科1学級 5学級	黒石 普通科○学級 商業科1学級 看護科1学級 ○学級
弘前実業 商業科3学級 家庭科2学級 スポーツ科1学級 6学級	弘前実業 商業科○学級 家庭科2学級 スポーツ○学級 ○学級
36学級	△2学級 → 34学級

〈意見〉

- 中南地区は第1次産業が特色であることから、人財育成の観点から、農業科等の職業教育を主とする専門学科の学級減を倍率のみで判断することには慎重になるべき。
- 職業教育を主とする専門学科を1学級減ずるのは、学びがこの地区からなくなることに繋がるので、学級減は慎重に判断すべき。

〈効果〉

〈課題〉

※学級減の対象となりうる学校については、学級数を「○学級」と示している。

第1回の意見に基づく学校規模・配置

③ 学級減（黒石高校は除く）で対応

第2期実施計画	前期実施計画
R 9	R 14
弘前 6学級	弘前 ○学級
弘前工業 6学級	弘前工業 ○学級
柏木農業 3学級	柏木農業 ○学級
弘前中央 5学級	弘前中央 ○学級
弘前南 5学級	弘前南 ○学級
黒石 普通科3学級 商業科1学級 看護科1学級 5学級	黒石 普通科3学級 商業科1学級 看護科1学級 5学級
弘前実業 商業科3学級 家庭科2学級 スポーツ科1学級 6学級	弘前実業 商業科○学級 家庭科○学級 スポーツ科○学級 ○学級
36学級	34学級

〈意見〉

- 前回の統廃合により残っている学校や学科はこれ以上減らすべきではない。

〈効果〉

〈課題〉

※学級減の対象となりうる学校については、学級数を「○学級」と示している。

第1回の意見に基づく学校規模・配置

④ 学級減（普通科及び専門学科で1学級ずつ減）で対応

第2期実施計画	前期実施計画
R 9	R 14
弘前 6学級	◇弘前 ○学級
弘前工業 6学級	◆弘前工業 ○学級
柏木農業 3学級	◆柏木農業 ○学級
弘前中央 5学級	◇弘前中央 ○学級
弘前南 5学級	◇弘前南 ○学級
黒石 普通科3学級 商業科1学級 看護科1学級 5学級	黒石 ◇普通科○学級 ◆商業科○学級 ◆看護科○学級 ○学級
弘前実業 商業科3学級 家庭科2学級 スポーツ科1学級 6学級	弘前実業 ◆商業科○学級 ◆家庭科○学級 ◆スポーツ科○学級 ○学級
36学級	34学級

※◇及び◆から1学級ずつ減

〈意見〉

- 2クラス減の場合は、普通科と専門学科を各1クラス減するのが良い。

〈効果〉

〈課題〉

※学級減の対象となりうる学校については、学級数を「○学級」と示している。

学校の在り方地区検討委員会（上北地区） 【第2回】



令和8年1月
青森県教育委員会

本日の流れ

| 事務局説明

- (1) 第1回の主な意見
- (2) 第1回の意見に基づく資料
- (3) 高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン（仮称））骨子

2 意見交換

- (1) 全日制課程の学校規模・配置について
 - ①学校規模・配置
 - ②学校規模・配置の効果・課題
- (2) 定時制課程・通信制課程の学校配置について

I 事務局説明

(1) 第1回の主な意見
参考資料1を参照

(2) 第1回の意見に基づく資料
参考資料2を参照

(3) 高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン（仮称））骨子 ～2040年に向けたN-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想～【R7.11.28公表】

1 グランドデザインの背景

- 2040年には、少子高齢化や生産年齢人口減少、地方の過疎化が一層深刻化。産業構造や社会システムの変化を踏まえた労働力需給ギャップや理系人材不足の可能性
- 高校生が「自ら問いを立てる力」「他者と共に価値を作り出す力」等を身に付け、希望する大学等への進学や就職等をし、生涯を通じて幸福に暮らしていくことができるよう、次の3つの視点で高校改革

2 高校改革の方向性

＜視点1＞AIに代替されない能力や個性の伸長

- 探究的、実践的学習への学習観の転換
- 「生徒を主語にした」教育の推進
- 「好き」を育み「得意」を伸ばす多様な経験を通じた、生徒一人一人の能力の伸長、主体性の涵養

＜視点2＞我が国の社会・経済の発展を支える人材育成

- 産業イノベーション人材、世界で活躍する人材の育成
- 新時代を担う人材を育成するための高校の特色化・魅力化

＜視点3＞一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

- 地域における高校教育の維持や学びのアクセスの確保
- 高校のいづれの課程でも柔軟で質の高い学びの選択肢を保障

2 意見交換

(Ⅰ) 全日制課程の学校規模・配置について

①学校規模・配置

〈論点〉

- 学級減や統合等を含めた学校規模・配置

〈意見交換に当たっての留意点〉

- 「高等学校教育を受ける機会の確保」と「充実した教育環境の整備」の2つの観点のバランス
- 中学生や保護者のニーズ
- 地域の産業構造などの地域の実情

第1回の意見に基づく学校規模・配置

① 学級減（職業教育を主とする専門学科を除く）で対応

第2期実施計画 R 9	前期実施計画 R 14
三本木 6学級	三本木 5学級
三本木農業恵拓 普通科2学級 農業科4学級 6学級	三本木農業恵拓 普通科1学級 農業科4学級 5学級
三沢 5学級	三沢 4学級
七戸 3学級	七戸 2学級
百石 普通科2学級 家庭科1学級 3学級	百石 普通科1学級 家庭科1学級 2学級
十和田工業 4学級	十和田工業 4学級
三沢商業 3学級	三沢商業 3学級
30学級	△5学級 → 25学級
野辺地 1学級 【地域校】 六ヶ所 1学級	【地域共育校】 野辺地 1学級 【地域共育校】 六ヶ所 1学級
32学級	△5学級 → 27学級

〈意見〉

- 現在設置されている職業教育を主とする専門学科は維持すべき。
- 上北地区では農畜産業が盛んであり、後継者育成の観点からも、職業教育を主とする専門学科は存続させるべき。
- 普通科がこれまでと同様に均質的なクラスで教育活動を展開するのであれば学級減すべき。
- 重点校を解消するのであれば、普通科から学級減を進めてほしい。
- 上北地区は農業人口が多いことから、農業に関する学科は配置すべき。また、既存の職業学科（工業・商業）は普通科以外の選択肢として、さらには地域の人財育成のためにも残すべき。

〈効果〉

〈課題〉

第1回の意見に基づく学校規模・配置

② 学級減（職業学科の精選と普通科の学級減）で対応

第2期実施計画 R 9	前期実施計画 R 14
三本木 6学級	三本木 5学級
三本木農業恵拓 普通科2学級 農業科4学級 6学級	三本木農業恵拓 普通科1学級 農業科4学級 5学級
三沢 5学級	三沢 4学級
七戸 3学級	七戸 3学級
百石 普通科2学級 家庭科1学級 3学級	百石 普通科1学級 家庭科1学級 2学級
十和田工業 4学級	十和田工業 4学級
三沢商業 3学級	三沢商業 2学級
30学級	△5学級 → 25学級
野辺地 1学級 【地域校】 六ヶ所 1学級	【地域共育校】 野辺地 1学級 【地域共育校】 六ヶ所 1学級
32学級	△5学級 → 27学級

〈意見〉

- 現実的に考えれば、職業学科の精選と普通科の学級減ではないか。

〈効果〉

〈課題〉

第1回の意見に基づく学校規模・配置

③ 学級減（百石高校を除く）で対応

第2期実施計画 R 9	前期実施計画 R 14
三本木 6学級	三本木 ○学級
三本木農業恵拓 普通科2学級 農業科4学級 6学級	三本木農業恵拓 普通科○学級 農業科○学級 ○学級
三沢 5学級	三沢 ○学級
七戸 3学級	七戸 ○学級
百石 普通科2学級 家庭科1学級 3学級	百石 普通科2学級 家庭科1学級 3学級
十和田工業 4学級	十和田工業 ○学級
三沢商業 3学級	三沢商業 ○学級
30学級	△5学級 → 25学級
野辺地 1学級 【地域校】 六ヶ所 1学級	【地域共育校】 野辺地 1学級 【地域共育校】 六ヶ所 1学級
32学級	△5学級 → 27学級

〈意見〉

○ おいらせ町は子どもが増えており、地域にとって百石高校は必要であることから、学級減や募集停止はせずに入学者数が増加するような取組をお願いしたい。

〈効果〉

〈課題〉

※学級減等の対象となりうる学校については、学級数を「○学級」と示している。

学校の在り方地区検討委員会（下北地区） 【第2回】



令和8年2月
青森県教育委員会

本日の流れ

| 事務局説明

- (1) 第1回の主な意見
- (2) 第1回の意見に基づく資料
- (3) 高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン（仮称））骨子

2 意見交換

- (1) 全日制課程の学校規模・配置について
 - ①学校規模・配置
 - ②学校規模・配置の効果・課題
- (2) 定時制課程・通信制課程の学校配置について

I 事務局説明

(1) 第1回の主な意見
参考資料1を参照

(2) 第1回の意見に基づく資料
参考資料2を参照

(3) 高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン（仮称））骨子 ～2040年に向けたN-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想～【R7.11.28公表】

1 グランドデザインの背景

- 2040年には、少子高齢化や生産年齢人口減少、地方の過疎化が一層深刻化。産業構造や社会システムの変化を踏まえた労働力需給ギャップや理系人材不足の可能性
- 高校生が「自ら問いを立てる力」「他者と共に価値を作り出す力」等を身に付け、希望する大学等への進学や就職等をし、生涯を通じて幸福に暮らしていくことができるよう、次の3つの視点で高校改革

2 高校改革の方向性

＜視点1＞AIに代替されない能力や個性の伸長

- 探究的、実践的学習への学習観の転換
- 「生徒を主語にした」教育の推進
- 「好き」を育み「得意」を伸ばす多様な経験を通じた、生徒一人一人の能力の伸長、主体性の涵養

＜視点2＞我が国の社会・経済の発展を支える人材育成

- 産業イノベーション人材、世界で活躍する人材の育成
- 新時代を担う人材を育成するための高校の特色化・魅力化

＜視点3＞一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

- 地域における高校教育の維持や学びのアクセスの確保
- 高校のいづれの課程でも柔軟で質の高い学びの選択肢を保障

2 意見交換

(Ⅰ) 全日制課程の学校規模・配置について

①学校規模・配置

〈論点〉

- 学級減や統合等を含めた学校規模・配置

〈意見交換に当たっての留意点〉

- 「高等学校教育を受ける機会の確保」と「充実した教育環境の整備」の2つの観点のバランス
- 中学生や保護者のニーズ
- 地域の産業構造などの地域の実情

第1回の意見に基づく学校規模・配置

① 学級減で対応

第2期実施計画 R 9	前期実施計画 R 14	
田名部 5学級	△1学級 →	田名部 4学級
統合校 5学級		統合校 5学級
10学級	△1学級 →	9学級
【地域校】 大間 2学級		【地域共育校】 大間 2学級
12学級	△1学級 →	11学級

〈意見〉

○ 田名部高校の募集定員を減らせば、大間高校を希望する生徒は必然的に増えると考える。

〈効果〉

〈課題〉

第1回の意見に基づく学校規模・配置

② 統合で対応

第2期実施計画	前期実施計画	
R 9	R 14	
田名部 5学級	△1学級 →	新設校 ○○科○学級 ○○科○学級 ○○科○学級 9学級
統合校 5学級		
10学級	△1学級 →	9学級
【地域校】 大間 2学級		【地域共育校】 大間 2学級
12学級	△1学級 →	11学級

〈意見〉

- 将来的には田名部高校と下北地区統合校の1校2キャンパス制も考えられる。

〈効果〉

〈課題〉

※学級減の対象となりうる学校については、学級数を「○学級」と示している。

学校の在り方地区検討委員会（三八地区） 【第2回】



令和8年1月
青森県教育委員会

本日の流れ

| 事務局説明

- (1) 第1回の主な意見
- (2) 第1回の意見に基づく資料
- (3) 高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン（仮称））骨子

2 意見交換

- (1) 全日制課程の学校規模・配置について
 - ①学校規模・配置
 - ②学校規模・配置の効果・課題
- (2) 定時制課程・通信制課程の学校配置について

I 事務局説明

(1) 第1回の主な意見

参考資料1を参照

(2) 第1回の意見に基づく資料

参考資料2を参照

(3) 高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン（仮称））骨子 ～2040年に向けたN-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想～【R7.11.28公表】

1 グランドデザインの背景

- 2040年には、少子高齢化や生産年齢人口減少、地方の過疎化が一層深刻化。産業構造や社会システムの変化を踏まえた労働力需給ギャップや理系人材不足の可能性
- 高校生が「自ら問いを立てる力」「他者と共に価値を作り出す力」等を身に付け、希望する大学等への進学や就職等をし、生涯を通じて幸福に暮らしていくことができるよう、次の3つの視点で高校改革

2 高校改革の方向性

＜視点1＞AIに代替されない能力や個性の伸長

- 探究的、実践的学習への学習観の転換
- 「生徒を主語にした」教育の推進
- 「好き」を育み「得意」を伸ばす多様な経験を通じた、生徒一人一人の能力の伸長、主体性の涵養

＜視点2＞我が国の社会・経済の発展を支える人材育成

- 産業イノベーション人材、世界で活躍する人材の育成
- 新時代を担う人材を育成するための高校の特色化・魅力化

＜視点3＞一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

- 地域における高校教育の維持や学びのアクセスの確保
- 高校のいづれの課程でも柔軟で質の高い学びの選択肢を保障

2 意見交換

(Ⅰ) 全日制課程の学校規模・配置について

①学校規模・配置

〈論点〉

- 学級減や統合等を含めた学校規模・配置

〈意見交換に当たっての留意点〉

- 「高等学校教育を受ける機会の確保」と「充実した教育環境の整備」の2つの観点のバランス
- 中学生や保護者のニーズ
- 地域の産業構造などの地域の実情

第1回の意見に基づく学校規模・配置

① 学級減（八戸西高校・三戸郡を除く）で対応

第2期実施計画 R 9	前期実施計画 R 14
八戸 6学級	八戸 ○学級
八戸東 普通科4学級 表現科1学級 5学級	八戸東 普通科○学級 表現科○学級 ○学級
八戸北 5学級	八戸北 ○学級
八戸西 普通科5学級 スポ科1学級 6学級	八戸西 普通科5学級 スポ科1学級 6学級
名久井農業 2学級	名久井農業 2学級
八戸水産 3学級	八戸水産 ○学級
八戸工業 6学級	八戸工業 ○学級
八戸商業 3学級	八戸商業 ○学級
36学級	△2学級 → 34学級
【地域校】 三戸 1学級	【地域共育校】 三戸 1学級
37学級	△2学級 → 35学級

〈意見〉

- 八戸西高校は高倍率を維持しており、三戸郡の生徒にとって通いやすい高校であるため、学級数を維持してほしい。
- 八戸西高校は、閉校となった五戸高校の近隣の生徒を受け入れる役割もあると考えるため、現在の規模を維持してほしい。
- 三戸高校や名久井農業高校には三戸郡の生徒が多く在籍しているため維持してほしい。また、三戸郡から公共交通機関で通学することができる八戸西高校も維持してほしい。
- 八戸西高校、三戸高校、名久井農業高校は学級を減らしてほしくない。

〈効果〉

〈課題〉

※ 学級減の対象となりうる学校については、学級数を「○学級」と示している。

第1回の意見に基づく学校規模・配置

② 学級減（職業教育を主とする専門学科を除く）で対応

第2期実施計画 R9	前期実施計画 R14
八戸 6学級	八戸 ○学級
八戸東 普通科4学級 表現科1学級 5学級	八戸東 普通科○学級 表現科○学級 ○学級
八戸北 5学級	八戸北 ○学級
八戸西 普通科5学級 スポ科1学級 6学級	八戸西 普通科○学級 スポ科○学級 ○学級
名久井農業 2学級	名久井農業 2学級
八戸水産 3学級	八戸水産 3学級
八戸工業 6学級	八戸工業 6学級
八戸商業 3学級	八戸商業 3学級
36学級	△2学級 → 34学級
【地域校】 三戸 1学級	【地域共育校】 三戸 1学級
37学級	△2学級 → 35学級

〈意見〉

- 農業の人財育成の観点から、農業高校は地域に必要。
- 農業や水産業、商工業に関する学びは次の担い手を育成する意味で必要。

〈効果〉

〈課題〉

※ 学級減の対象となりうる学校については、学級数を「○学級」と示している。

第1回の意見に基づく学校規模・配置

③ 学級減（学科の統合）で対応

第2期実施計画 R9	前期実施計画 R14
八戸 6学級	八戸 6学級
八戸東 普通科4学級 表現科1学級 5学級	八戸東 普通科4学級 表現科1学級 5学級
八戸北 5学級	八戸北 5学級
八戸西 普通科5学級 スポ科1学級 6学級	八戸西 普通科5学級 スポ科1学級 6学級
名久井農業 2学級	名久井農業 ○学級
八戸水産 3学級	八戸水産 ○学級
八戸工業 6学級	八戸工業 ○学級
八戸商業 3学級	八戸商業 ○学級
36学級	34学級
【地域校】 三戸 1学級	【地域共育校】 三戸 1学級
37学級	35学級

〈意見〉

- 学科の統合を行って2学級分を減じることも選択肢の一つ。

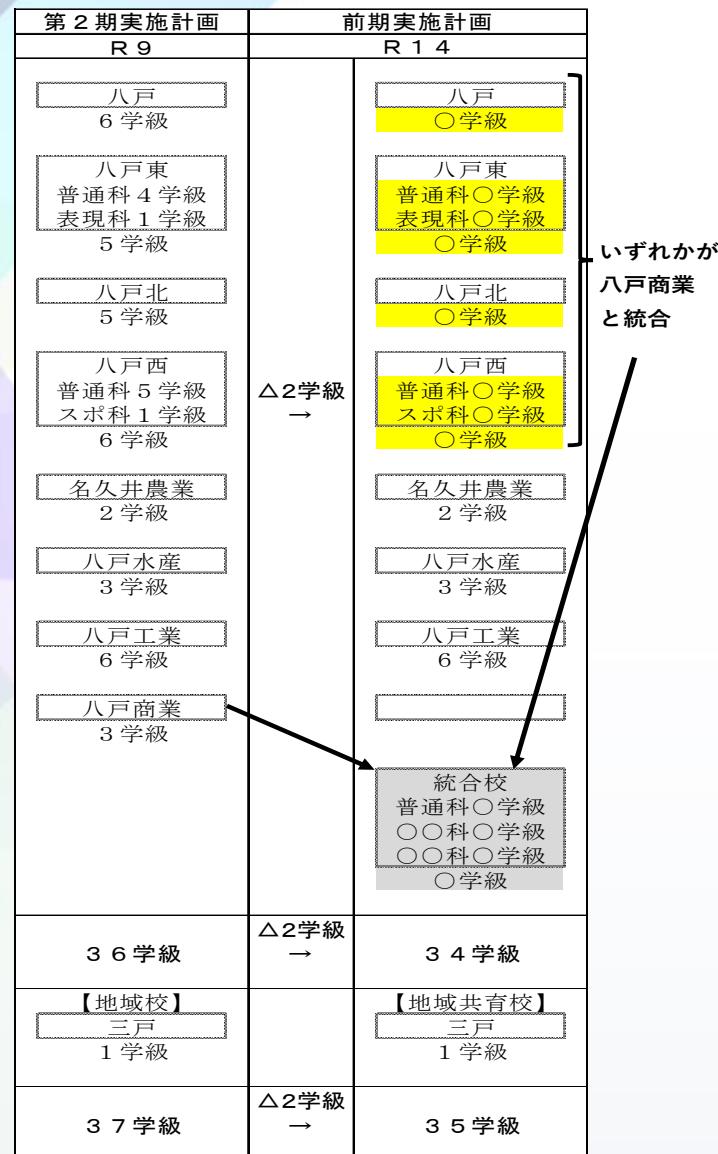
〈効果〉

〈課題〉

※ 学級減の対象となりうる学校については、学級数を「○学級」と示している。

第1回の意見に基づく学校規模・配置

④ 統合（八戸商業高校及び普通科高校）で対応



〈意見〉

- 多様化している中学生のニーズに対応するためには、学級減ではなく統合による対応も考えられる。
- 八戸商業高校の進学率がとても高い。普通科のある学校との統合は考えられないだろうか。

〈効果〉

〈課題〉

※ 統合の対象となりうる学校については、学級数を「○学級」と示している。